

“XB”ヘッドホンと「DOMMUNE」が実現するクラブフロア体験の新しいカタチ
東京とロンドンのビッククラブとワールドワイドのクラブミュージックファンをつなぐ
DJ・ライブストリーミングイベントを開催

**XB meets DOMMUNE and fabric
ULTIMATE DEEP BASS on live streaming @DOMMUNE**

2011.03.13 19:00-24:00

**From DOMMUNE KEN ISHII / DJ KENTARO / DJ AKI
From fabric Craig Richards/Ramadanman/Ben UFO/Pangaea**

URL : <http://www.sony.jp/headphone/special/xb/>

ソニーマーケティング株式会社は、迫力の重低音とダイナミックな音圧でクラブフロアの音場を再現、クラブミュージックを楽しむために開発された「エクストラベースシリーズ(XBシリーズ)」の最上位機種となるステレオヘッドホン『MDR-XB1000』、そして密閉型インナーイヤーレシーバー『MDR-XB41EX』『MDR-XB21EX』の計3機種を2月10日(木)より発売開始致しました。

この発売に際し、グラフィックデザイナー、映像作家、VJ、現代美術家、文筆家と、多岐に渡り活動する全方位的アーティスト、宇川直宏氏が2010年3月に立ち上げたインターネットとPCを介した話題の高音質ライブストリーミングチャンネル「DOMMUNE」とともに、3月13日(日)、東京・ロンドンの2カ国を同時生中継するWEBクラブイベントを実施することとなりました。ロンドンでは、サウンドクオリティで定評のあるビッククラブ「fabric」を会場に、Craig Richards、Ramadanman、Ben UFO、Pangaeaらが、日本では、DOMMUNEで、KEN ISHII、DJ KENTARO、DJ AKI、が競演いたします。

DOMMUNEは世界中から注目を集めているDJライブ・ストリーミングサイト。リアルなフロアと同じサウンドになるように宇川氏が自ら最終ミックスを行い配信するこだわりをもち、世界でも有数の音の良さ、重低音の気持ち良さが定評のあるWeb上のクラブ空間です。また、ロンドンのfabricは、英国はもとより世界でも有数のサウンドクオリティと重低音へのこだわりで、毎年、DJ Magazineの“Top 100 Clubs”の首位を争うクラブのひとつです。

3月13日のコラボレーションは、重低音にこだわった両クラブのサウンドを宇川氏が“XB”で最終モニターし、配信。ネットとヘッドホンを通じて、ワールドクラスのクラブ音場を、クラブミュージックファンと体験・共有するイベントです。

XB meets DOMMUNE and fabric ULTIMATE DEEP BASS on live stream

DATE : 2011.3.13(日)

TIME : 19:00-24:00

URL : <http://www.sony.jp/headphone/special/xb/>

巨大ウーファー直前のクラブ空間が実現。重低音の快楽を体感するXBシリーズ



出演DJ PROFILE

fabric

Craig Richards



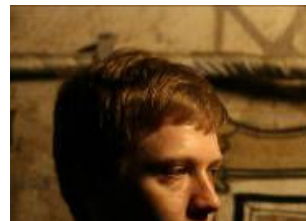
Ramadanman



Ben UFO



Pangaea



Craig Richards

Craig Richardsは、1997年にブレイクビート・モンスターと呼ばれるテックハウスチーム「Tyrant」を結成。その際に作り上げられたプッシュ/プルサウンドは、今でも世界中のクラブで認められ、楽しまれている。さらに「Freaky Disco」という名のアンダーグラウンド・ハウス・ナイトを開催し、歪みよめくようなテックサウンドを確立した。それから11年が経って振り返れば、クレイグの成功こそがfabricを世界的に有名なクラブへと成長させたことが分かる。ミュージカル・ディレクターとしては、サタデー・ナイト・プログラミングにモダンなアプローチを常に取り入れること、DJとしてクラブのイメージでもあるユニークで妥協のないスタイルを維持することが彼に課せられた使命である。チャレンジ精神を忘れず、常に変化していくクレイグの早朝セットこそがロンドン・レジェンドである。

Ramadanman

初期ダブステップのスタイルからさらに進化したポスト・ダブステップの旗手と謳われる Ramadanman。エレクトロニックな質感を持った実験的なサウンドは、スクリームやコード9といったダブステップシーンの重鎮に加え、リカルド・ヴィラロボスのような他ジャンルの重鎮からも大きな評価を受けている。2007年の1月、Hessle club nightというイベントをfabricで開催。その夜はfabricliveが初めてダブステップのDJを起用した日となる。同年、Ben UFOとPangaeaとともに設立したHessle Audioから現在までに19タイトルをリリース。2011年には20枚目のアルバムがリリースされる。

Ben UFO

Ben UFOは、作品制作に頼らずインパクトを残してきたUKのDJの数少ない一人であり、彼の高い評判は選曲やミックスというDJの基本スキルから来ている。その結果、ハウスからガレージ、ダブステップからグライム等、古今東西のあらゆる音楽を探求し尽くしているDJとしてのポジションを確立した。Ben UFOはJoy OrbisonによるHyph Mngoをプレイした最初のDJであり、またロンドンのRinseFMで2週に1度の彼の番組は、幅広いジャンルから超最新の音楽が紹介され、有名無名を問わずに優れた作品が紹介される数少ない場所とみなされている。近年はKerri ChandlerやRicardo Villalobosのような伝説的な人物とプレイする機会も増え、多くのメディアが、2011年にBen UFOの認知がこれまで以上に上がるだろうと語っている。

Pangaea

Pangaeaのサウンドをカテゴライズすることは難しい。それは絶え間なく変わり続けるからだ。ハウスやテクノの影響があることは明らかだが、その音楽はUKの過去から現在に至る重低音ミュージックに非常に強く根付いたものである。リーズにおける初めてのダブステップ・ナイト「Ruffage」に関わり、2007年初頭、RamadanmanとBen UFOとともに未だかつて表現されていないオリジナルの音楽をリリースすることを目的とするHessle Audioレーベルを立ち上げ、UntoldやJames Blake、Ramadanmanや彼自身を含むそのディスコグラフィーは急成長を続けている。ダンスミュージックの未来を先取りするプロデューサーおよびDJのひとり。

DOMMUNE

KEN ISHI



DJ KENTARO



DJ AKI



KEN ISHI

'93年、ベルギーのテクノレーベル「R&S」からデビュー。イギリス音楽誌「NME」のテクノチャートでNo.1を獲得、世界に通用する音作りができる日本人のパイオニア的存在として、ワールドワイドで高い評価を得る。'98年、長野オリンピック・オフィシャル・オープニングテーマのインターナショナル版を作曲し、世界70カ国以上でオンエア。2000年には、アメリカのニュース週刊誌「Newsweek」で表紙を飾る。アーティスト、DJ、プロデューサー、リミキサーとして幅広く活動し、'04年、スペイン・イビサ島で開催のダンス・ミュージック界最高峰「DJ AWARDS」でBEST TECHNO DJを受賞し、名実共に世界一を獲得。2010年1月、ケンイシ本人が個人的に思い入れの強い曲を選びコンパイルした2枚組ベスト盤「KI15 - The Episodes」と、スペシャルボックスセット「KI15 - The Box」[The Episodes+Bonus CD(Live)+Bag]をリリース。今春ニューアルバムリリース予定。

DJ KENTARO

ターンテーブルリストであり、サウンドクリエイターである日本のDJ。13歳の頃ターンテーブルと衝撃的な出会いをし、故郷仙台の複数のクラブでレギュラーイベントをオーガナイズする活動を中心に行う。そして20歳のとき、ロンドンで行われた世界最大のDJバトル、DMC World Final 2002において、ジャッジ16人中15人が1位をつける大会史上最高得点というギネスを残し、圧勝という形でアジアから初の世界チャンピオンに輝く。その後、日本を含め各国のイベントや大型フェスティバルなど積極的にツアーを決行。数多くの楽器奏者や歌手ともセッションを重ねた後、日本、海外アーティストのRemix制作や楽曲参加など、作品を多く世に出して来た。現在も地球上をジャンルレスな音楽観と共に飛び回るターンテーブルマエストロDJ KENTAROは、ENTER以降のNew Albumの発表が待たれているなか、米最大フェス、COACHELLA 2011(Palm Springs, CA)にも出演が決定している。

DJ AKI

'01年にニューヨークより日本に帰国し「06S」のレジデントDJとしてWOMBでの活動を開始。'03年には本場イギリスに進出し、ドラムベースDJの登竜門的イベント「MOVEMENT」に出演。'07年ロンドンの老舗クラブTHE ENDで開催されているANDY C主宰RAM RECORDSのパーティー「RAM NIGHT」を皮切りに、FABIOのパーティー「SWERVE」、リバプールのダンスミュージックフェスティバル「CHIBUKU SHAKE SHAKE」、LONDONの大型クラブfabricと、日本人では異例のTOPクラブUKツアーを敢行。'09年には、LONDONの最先端クラブ「MATTER」で、開催されている「RAM NIGHT」に出演。精力的に海外のトップDJ/アーティストと共演すると共に日本に紹介し、日本全国のシーンの拡大に務めている。ハードな完全フロアー対応のDJスタイルと、メロウで艶やかなラウンジDJセットを巧みに操り幅広いクラウドを魅了し、国内外から日本を代表するドラムベースDJとして今後の更なる活動に注目が集まっている。

XB シリーズ

『MDR-XB1000』/『MDR-XB41EX』/『MDR-XB21EX』

キングサイズのイヤークッションでつくった密閉スペースで耳をつつんで、その空間に見合わない過剰な世界最大の大口徑ドライバーユニットを入れました。まさにクラブのシステムをそのままヘッドホンで再現したんですよ。
Designer(XB Series) 小宮山 淳



世界最大*新開発70mmドライバーユニットで巨大ウーファー直前のクラブ音場をリアルに再現。
MDR-XB1000

密閉型パーティカル・イン・ザ・イヤークッション方式で、重低音のクラブ音場を高品質&快適に再現。
MDR-XB41EX



装着してサウンドを鳴らすと、そこに濃厚な音圧に満ちたクラブ空間が現れる。重低音でハイになる快楽を知っているクラブ音楽リスナーのためのステレオヘッドホン。

重低音が効いた迫力サウンドを高品質で再現し、コンパクトかつ耳にやさしくフィットする密閉型インナーイヤークッション方式。

<Designer(XB Series)小宮山'S Voice>

既存のユニットをちょっとしたチューニングで無理矢理ブーストしているわけではなく、クラブの音場再現のためにゼロから設計しているのだから、だいたい無茶な事をしています。まずイヤークッションは、国内の工場で縫製のベテランの方に何度も試作を重ねてもらって、ここまで厚く縫うのはなかなか大変なんです。この厚みがないと、個人差無く高い密閉度の空間が作れないんですよ。イヤークッションによって内側に空間が出来るんですが、この空間に見合わない、新規に開発した世界最大の7cmの振動板が入っているんです。過剰に密閉された空間に見合わない、過剰なシステム。まさにクラブのシステムをそのままヘッドホンで再現したんですよ。

<Designer(XB Series)小宮山'S Voice>

インナーイヤークッションタイプのXB41EX、XB21EXは値段も手頃なのですが、音と装着性でしっかりとXBのコンセプトを体現しています。特にXB41EXの完成度は、手前味噌ですがかなりのものですよ。

Designer(XB Series) 小宮山 淳

ソニー株式会社 クリエイティブセンター所属。ラジオ、携帯電話、オーディオシステム等のデザイン担当を経て、2004~5年頃から本格的にヘッドホンデザインのプロデューサーを手がける。近作はMDR-XBシリーズ、MDR-Z / ZXシリーズ、MDR-ASシリーズなど。また98年からインディーズユニットWSFF2102のメンバーとして音楽活動をスタート。ビートプログラミング、トラックメイクを担当。アルバム3枚、シングル12枚をリリース。

※民生用ダイナミック型ヘッドホンにおいて 2011年1月 ソニー調べ